

「

BELIEVE



2016  
春号  
VOL.56

」

特集 **小児医療「こどもたちに笑顔と未来を！」**



山野 将志「はつばと花のみついた絵」・制作年/2008・素材/アクリル、顔料マーカー、パネル  
〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableartcom.jp>〉

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔** 56 腫瘍内科部長 **津村 剛彦**

- 食だより「お菓子とエネルギー」／がんサポートチームからのお知らせ「精神科医の役割について」／お薬ミニ知識「抗がん剤治療と副作用」
- 外来・入院アンケート調査 ● 〆かかりつけ医、をもちましよう

**大阪赤十字病院の理念**

わたしたちは  
人道・博愛の赤十字精神に基づき  
すべての人の尊厳をまもり  
心のかよう高度の医療をめざします

**患者さんの権利**

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



## 子どもたちにも笑顔と未来を！

Save the children!

### 副院長 兼 小児科部長 住本 真一



昭和60年京都大学医学部卒業。同年小児科入局、京都大学医学部附属病院小児科研修医を経て、昭和61年財団法人住友病院小児科に勤務。平成元年京都大学大学院医学研究科博士課程。平成5年より大阪赤十字病院小児科に勤務。平成16年当院小児科部副部長、平成24年当院小児科部長に就任。平成28年当院副院長に就任。医学博士、京都大学医学部臨床教授、日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会(小児科)専門医・指導医、日本小児科学会代議員、日本アレルギー学会代議員、日本小児アレルギー学会評議員、大阪小児科医会理事。

当院は「小児医療」の拠点病院です。子どもたちを診療する部門は「小児科」、「小児外科」、「新生児・未熟児科」、「救急救命センター」、「集中治療室(ICU)」と、附属施設である「大手前整肢学園」の合計6部門があります。「子どもたちに笑顔と未来を!(Save the children!)」をスローガンに、スタッフ間で協力し合いながら取り組んでいます。今号では、その活動の一端を紹介します。

### 「少子・高齢化」における「小児医療」

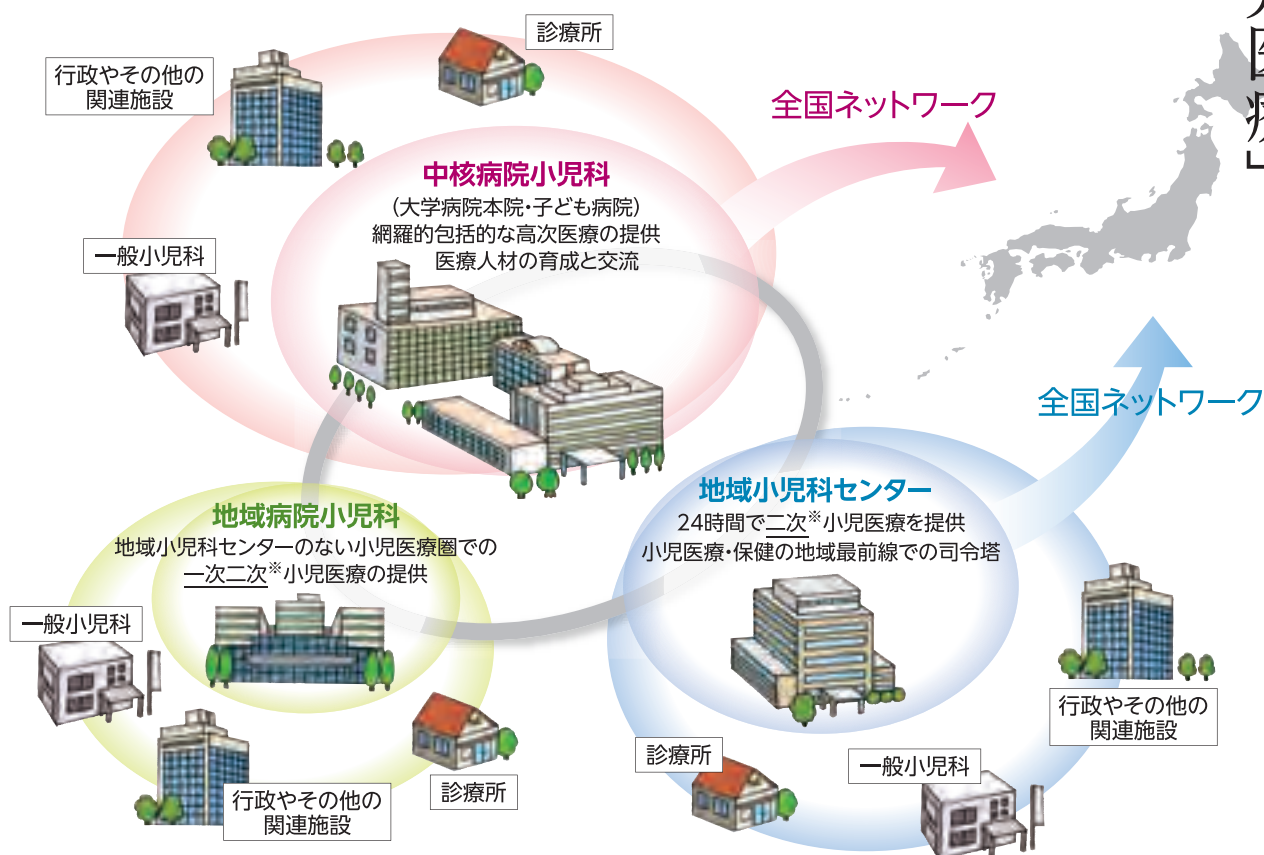
皆さまもご承知のとおり、まさに現在、日本は世界に類を見ない「少子・高齢化」に突入しています。医療の世界でも同様で、がん、高血圧、糖尿病、心臓病、脳卒中などの中々高齢者の疾患が増加し、病院も医師もそれに対応する医療制度にシフトしています。

ところが、小児医療は「少子化」に加え、手間がかかる割に検査や薬も少量で、不採算部門として、総合病院から消滅しつつあります。また、子どもの病気は、夜間や休日発症することが多く、急患に対応する医師の負担も非常に大きいものがあります。

そこで、日本小児科学会が音頭を取って、全国規模の「集約化」が10年前ぐらいから行われています。「集約化」とは、都道府県レベルで小児科の拠点病院を数カ所作り、その病院(中核病院あるいは地域小児科センター)が入院や急患に対応できる機能を持ち、通院で診られる患者さんは、できるだけ居住区に近い開業医や外来中心の病院の小児科が担当するシステムのことです。

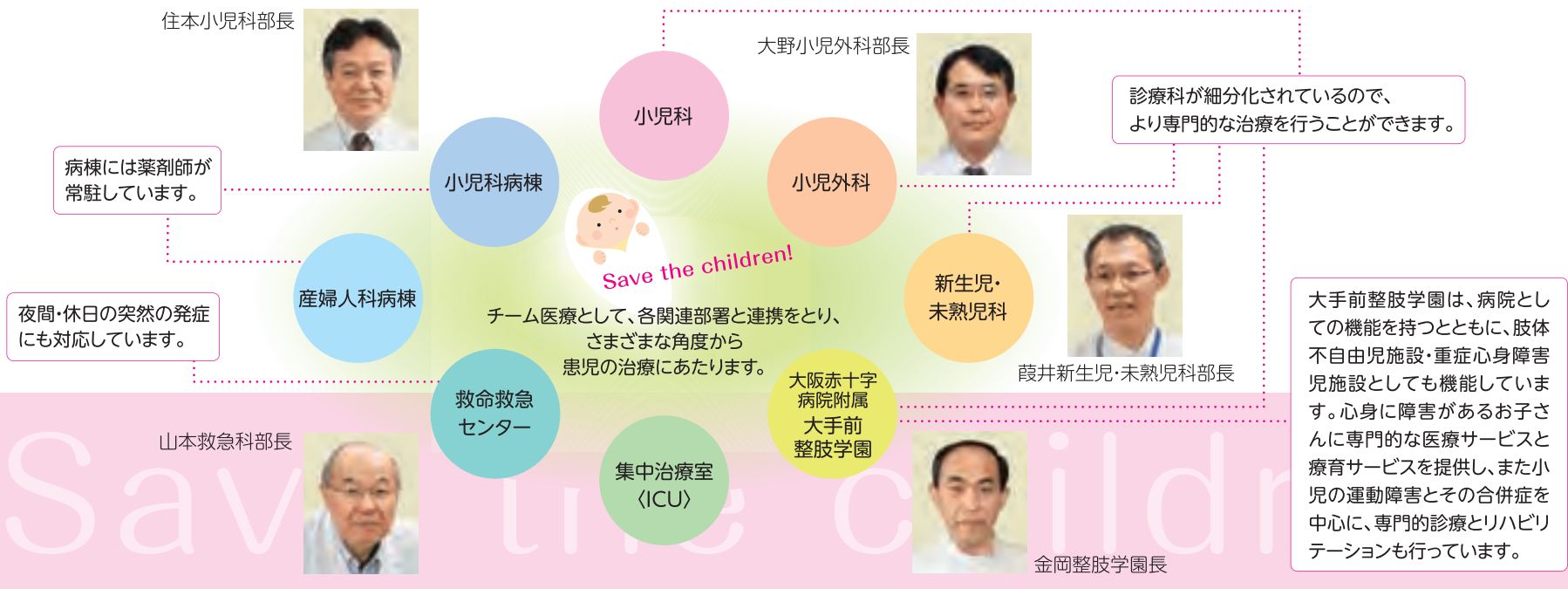
つまり、日頃は近くのかかりつけのお医者さんに診ていただき、入院や特別な検査・治療が必要な場合は、拠点病院に紹介していただきます。また、急患の場合は、夜間・休日診療所を受診していただき、必要があれば拠点病院に紹介していただきます。なお、急患の場合でも、救急車に乗らなければいけない重症例は、直接、拠点病院に搬送していただくことになっています。

当院の「小児医療」は、現在、大阪府の拠点病院の1つとして機能しています。



地域振興小児科は、学会にワーキンググループを形成して支援策を検討予定

※一次医療:風邪や腹痛など日常的な疾病が対象  
 二次医療:比較的専門性の高い外来医療や一般的な入院医療が対象



## 当院「小児医療」の実際

「いつでも、どんな小児疾患にも対応する」という気構えで、診療にあたっています。

具体的には、「小児科」を中心とした次の8分野になります。

- 1 一般診療(感染症、急性疾患) 肺炎や腸炎などの診療。多くは、かかりつけ医の先生からの紹介で、必要があれば入院治療。
- 2 専門診療(専門診療8領域の専門外来) 8領域(アレルギー、リウマチ、血液・がん、腎臓、心臓、神経、内分泌代謝、新生児)の専門診療。必要に応じて入院診療。
- 3 救急(24時間、365日) 救急搬送、紹介、後送、救命救急センターとともに、必要に応じて入院治療。
- 4 NICU/GCU 新生児・未熟児科とともに診療。  
NICU: 新生児特定集中治療室  
GCU: 継続保育室
- 5 障害児医療 大手前整肢学園とともに診療。
- 6 重症小児医療 集中治療室(ICU)とともに診療。
- 7 境界領域医療 小児外科、小児整形外科、形成外科、脳神経外科などとともに診療。
- 8 移行期医療 15歳以上の患者さんへの小児医療継続。



▲当院小児科医。現在、15人体制で、和気あいあいとがんばっています!



▲小児病棟スタッフ

以上、当院の「小児医療」をご紹介させていただきました。もしも、お子さまのことでお困りのことがあれば、ご相談ください。



▲NICU/保育器の中で赤ちゃんに必要な処置を行います

### ●入院病棟

小児病棟	8階B病棟:51床(小児科:45床、小児外科系:6床)
新生児・未熟児	8階A病棟:12床
大手前整肢学園	60床
集中治療室(ICU)	10床(他の診療科も使用)

### ●退院患者数の推移

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年
1,728人	1,613人	1,868人	2,320人	2,502人

## お楽しみ会(アメニティ)

子どもたちに夢や希望を持ってもらうために、病院をあげてお楽しみ会(アメニティ)を企画しています!

▼NICU同窓会。NICUの入院経験を持つ子どもたちの交流を深め、また保護者の方々が子育ての情報交換や相談をする行事です。



▼クリニックラウンが来院し、一緒に遊びました。クリニックラウンは、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わり(コミュニケーション)を通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育む道化師のことです。



▼クリスマスに帝国ホテル大阪からサンタクロースが来院され、サンタさんと遊んだり、お話ししたりしてクリスマスを楽しみました。(整肢学園)



▲1年に2回、八尾市の折り紙ボランティアの皆さまが病棟を訪れ、折り紙作品をプレゼントしてくださっています。



▶フットサル元日本代表でデフソン神戸の鈴木拓也選手が慰問で来院されました。病棟のプレイルームでボールさばきも見せてくださいました。



# 津村 剛彦

腫瘍内科部長



進歩の早い医療で、がんを克服できる未来に。画期的な医学の登場に期待したい。

患者さんに効果的な医療をサポートする、がん治療のための腫瘍内科。

「昔はこう見えても、『神童』と言われたほど賢い子どもだったんですよ」「小学生の頃が一番賢かった」と笑って話す津村医師が入ったのは、灘中学。中学高校と過ごした学校は、厳しい規則で縛られることはなく、自由な校風だったという。「厳しい先生もいなくて、のびのび個性を伸ばし放題でしたね。ただ宿題だけはこなすのがやつとなくらい、どうさり出ました。」

中・高に続いて、大学でものびのび過ごした津村医師が選んだのは、医師という職業。「役に立てる、感謝される仕事」と、漠然とした憧れがあったそう。当院での専門分野は消化器疾患の内視鏡(胃カメラ)治療で、

## TAKEHIKO TSUMURA

7月9日兵庫県生まれ。平成3年京都大学医学部卒業。関西電力病院、京都大学大学院、京都桂病院に勤務。平成11年医学博士に。平成14年より当院に赴任、腫瘍内科部長、消化器内科部副部長、外来通院治療センター長を兼任している。

消化器内科と腫瘍内科の二足のわらじを履き、忙しくなつたという津村医師の楽しみは、Apple製品の囲まれて過ごすこと。仕事部屋には43インチもの4Kテレビをモニターにして、MacBookやiPadを使って資料を作るのだとか。「Appleが好きなのは、斬新なデザインや使い勝手の良さ。それに、これからパソ

現在は、2年前に開設された腫瘍内科の部長以外に、消化器内科部副部長、外来通院治療センター長を掛け持っている。「消化器内科では、がん患者さんの内視鏡治療と抗がん剤治療を行っています。抗がん剤治療を専門とする科が腫瘍内科です。これまで抗がん剤治療は各科で行われていましたが、各科の垣根を取り払い、さまざまな科のあらゆる臓器の抗がん剤治療を行います。その治療をスムーズに、安全に進めるためのサポートをするなど、舵取り的な役割を担当しています。」

仕事の疲れを癒す、Apple製品に囲まれる時間。



▲4KテレビとApple製品を使って作業をする津村医師。

▲休日は愛犬との散歩を楽しみます。

毎年登場するがん治療の新薬。けれど、薬の性質・副作用を熟知して使わなければ、副作用が出て、かえって具合を悪くする。「新薬の登場に追いつくのは大変ですが、有効性が確認できれば、患者さんの延命につながる。十分な勉強が必要ですし、責任重大ですが、とても興味深いです。がん治療に取り組む医師も多く、薬剤師の力も借りて、医師・看護師・薬剤師によるチーム医療を実践しています。がん患者さんの治療に寄与できるよう、地域がん診療連携拠点病院として地域に貢献していきたいですね。」

## 看護師レポート・56



支えられながら、支えていく仕事。自分を活かせる仕事を広げていきたい。

### 金山 直美

看護師になろうと決めたのは、高校で進路を考えるときでした。「大変だけどやりがいのある仕事」と、小さい頃から聞かされていた、看護師だった母の言葉が浮かびました。大学で看護の勉強をしてい

たものの、実習がたつくと、看護師は無理だと思っていました。気がつけばもう十数年が経ちました。看護師になって初めのうちは、「看護師をやっているのか」と自信が持てませんでした。4年目で病院を退職し、韓国へ語学留学に行きました。看護で韓国語が話せたらもっと仕事の幅が広がるのではという思いがあり、また自分のルーツがある韓国を見てみたいという思いもありました。帰国後に復職し、今では韓国語での医療用語などはまだまだですが、日常会話で役に立てることができ、行ってよかったです。

3年前には休職して大学院へ行きました。看護師になった当初から、がんや糖尿病の患者さんを見てきて、患者さんが少しでも前向きに治療に取り組めないかと、ずっともやもやしていて、その答えを探するために学びに行き、『慢性疾患看護専門看護師』の資格を取得しました。休日には、目的なく散歩します。商店街が好きで、同じ道を歩いても、何か発見がある日と発見がない日があつて、それで自分の心の状態が分かるんです。何もなかったというときは、疲れているのかもと、スーパー銭湯に行き、リフレッシュしています。

振り返ると、自信がないときや迷ったときは、いつも先輩や師長に助けられ、患者さんに支えられながらやってきました。今までは自分の看護だけに目を向けていましたが、これからは係長として、スタッフの指導を充実させていきたいです。そして、資格を活かした看護を行っていききたいです。



留学中、友人と飲み歩いたソウルの街並み

## NAOMI KANAYAMA

5月6日大阪府生まれ。神戸大学医学部保健学科卒業後、当院に就職。消化器内科・糖尿病・内分泌内科の病棟看護に従事し、平成25年より「慢性疾患看護専門看護師」の資格取得に向けて、大阪府立大学大学院に就学。大学院卒業後、現在係長として病棟看護の管理・看護師育成に力を注いでいる。



今回はがんサポートチーム(緩和ケアチーム)における精神科医の役割についてお話しします。

がんサポートチームには精神科医も参加しており、他のスタッフと定期的なカンファレンスなどを通じて連携しています。

治療経過中、患者さんはさまざまな場面において、少なからずストレスにさらされます。そのストレスから不安感を抱いたり不眠に悩まされたりと、気分の落ち込みを感じられる患者さんも少なくありません。また、入院による環境の変化や身体的な不調を背景として、一時的に不眠や幻覚、興奮が生じる、いわゆる「せん妄」と呼ばれる症状が出現する場合もしばしばみられます。こういった症状について、身体面での改善に加えて、精神面でのサポートを行うことが精神科医の役割です。

精神面での不調は患者さんにとって、なかなか言い出しにくい問題であり、周りにも相談できず、

患者さん自身で抱え込んでしまわれることもあり、ますが、そのような不調は決して特別なことではなく、誰にでも起こりうるものです。患者さんにとって、気持ちの辛さを抱え込んでしまつことは、負担が大きく、身体面の治療においても悪影響を与えかねません。まずは、「眠れない」「食欲が湧かない」など比較的相談しやすい内容から主治医や看護師に伝えていただければと思います。また、ご家族の方々が「いつもと様子が違うな」「最近元気がないな」と感じられた際にも、遠慮なくご相談ください。

精神面での苦痛をやわらげるため、必要に応じてお薬の服用を提案させていただく場合もあります。ですが、誰にも話せない辛い気持ちを聞き取ることが精神科医の大切な役割です。精神科医もがんサポートチームの一員として、患者さんの精神面での苦痛緩和の一助となるよう努めてまいりますので、ご相談いただければと思います。

**がん相談支援センター** 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。  
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

# 食だより

## お菓子とエネルギー

栄養管理課  
管理栄養士 山口 翔平

春は暖かく、外出したくなる季節ですね。外に出ると、美味しい誘惑がたくさんあって、つい食事の摂取量が増えていく、そんな方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで今回はお菓子について考えていきます。

『今日はよく歩いたから、お菓子を食べても大丈夫』と思われることはありませんか？実は運動による消費エネルギーは、意外と少ないものです。消費エネルギーは体重や筋肉量などによっても変わってくるので、正確には目に見えません。前号で消費エネルギーについてお話しましたが、体重60kgの人が3時間必死に歩いたとしても、消費エネルギーはたったの500kcal程度です。外出先での『食事+お菓子』では、歩いた分のエネルギーは簡単に摂取してしまいます。最近では栄養表示が義務化されています。多くの食品や飲食店のメニューにも栄養成分表示が

記載されていることがありますが、摂取する際に参考にしてみてください。とは言っても、旅行先で買ったソフトクリームやご当地の饅頭、フッキーなどには、まだ栄養表示の記載がないものも多く存在します。会社などでいただいたお土産や、小袋のお菓子なども、意外とエネルギーが大きいことを覚えておく方がいいですね。

(例) 饅頭、みたらし団子など  
1個当たり100~200kcal  
シュークリーム、アイスクリーム  
1個当たり100~300kcal程度  
フッキー、クリーム入りのラングドシャなど/1枚当たり  
小さいもの10kcal程度、大きいもの100kcal程度

特にお菓子は、砂糖を多く使っています。そのため、体内の血糖値を上昇させやすく、中性脂肪として溜まりやすくなってしまう。暖かくなつて気持ちよく外出したくなる季節ですが、くれぐれも、甘い誘惑には注意しましょう。

# お薬

ミニ知識



薬剤部 薬剤師 岩本 義弘

## 抗がん剤治療と副作用

がんは日本で昭和56年より死因の第1位となり、今では生涯のうち約2人に1人がかかると推計されています。これまで数多くの研究がなされ、世の中にはさまざまな抗がん剤が出てきました。使用する抗がん剤、また治療法によって出現しやすい副作用は異なりますが、今回は一般的な副作用への対策に関して説明します。

**吐き気、嘔吐** 吐き気や嘔吐は、脳にある神経が刺激されることにより、起こります。個人差がありますが、人によっては1週間ほど持続することもあります。これを抑えるため、制吐剤が処方されます。むかつきを覚えたときには、我慢せずに服用しましょう。

**下痢** 下痢は、抗がん剤の影響で消化管の粘膜が破壊されたり、直接刺激を受けることで起こります。また、免疫力の低下などにより引き起こされる感染でも、起こることがあります。そんな場合は、整腸剤や下痢止めの薬剤が処方されますので、これらを指示通りに使用しましょう。

下痢をしている際は、脱水症状になることがあります。必ず水分摂取を心がけましょう。

**便秘** 便秘は、腸の働きを調節している神経の機能障害が起きて起こります。便秘が継続すると食事が摂りにくくなることもあります。まずは、食物繊維の多い食べ物を摂取するよう心がけましょう。また、病院より処方される便秘薬を調節して使用するとよいでしょう。

**感染症** 抗がん剤治療を行うと、骨髄(血液の成分を作る工場)の機能が低下し、身体を菌やウイルスから守ってくれる白血球の数が減ってしまい、感染症を引き起こすことが問題となります。まずは手洗いがいきて、感染症予防を心がけましょう。



「副作用が怖いから、抗がん剤治療はしたくない」と感じられるかもしれませんが、しかし、それぞれの副作用に対して適切に対処することが、安心して有効な抗がん剤治療を受けられることにつながります。ほんの少しでも不安や困ったことがあれば、医療スタッフにお尋ねください。

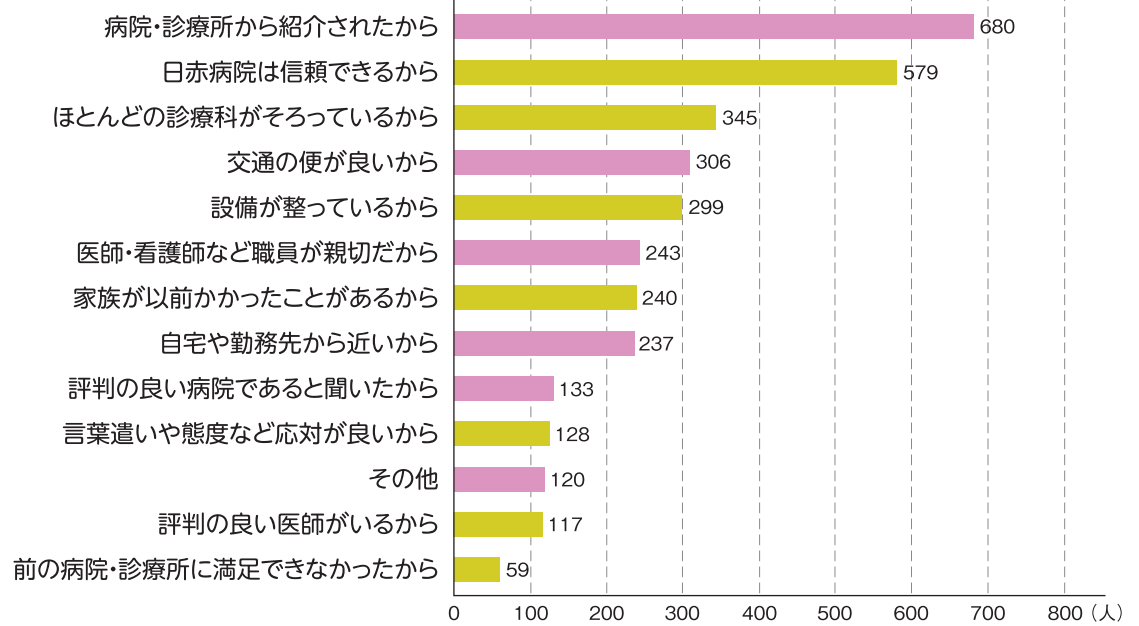
# 外来・入院アンケート調査

「外来・入院アンケート調査」を行いましたので、その結果をご報告します。多くの患者さんにご協力いただき、貴重なご意見を頂戴することができました。皆さまからのご意見をもとに、ご期待に添えるよう、また「こころのかよう高度の医療」を提供していただけるよう全力を尽くしてまいります。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

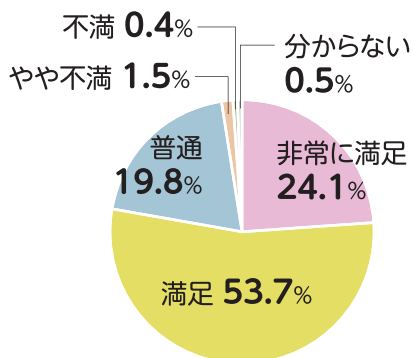
調査対象 大阪赤十字病院に通院中・入院中の患者さん 調査期間 (外来)平成28年2月23日～2月26日 (入院)平成28年2月23日～3月4日  
 調査方法 無記名回答 (外来)2階総合ホールで調査用紙を配付・回収、記載ブースを設置 (入院)調査初日に入院している患者さん全員に調査用紙を配布。以降は新規の入院患者さんに配布。



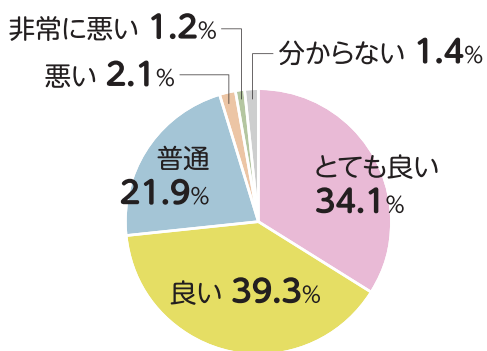
## Q 当院を選ばれた理由をお聞かせください(複数回答可)



## Q 総合的に見て、外来・入院のサービスに満足していますか?

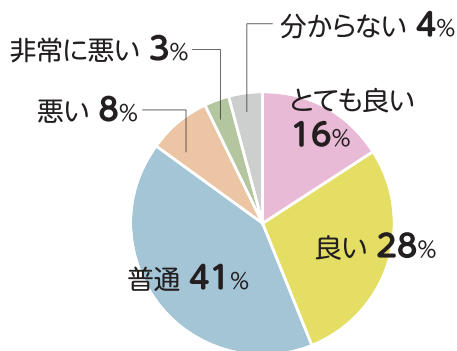


## Q 建物・設備の快適度について

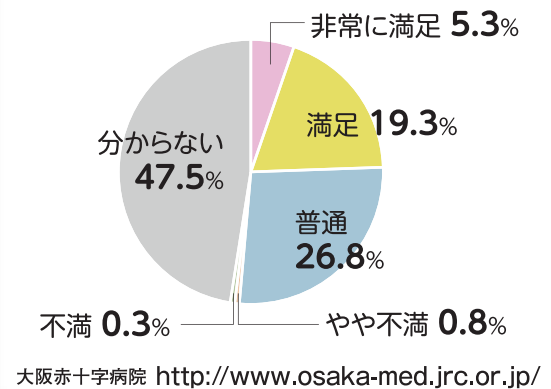


## Q 食事について

▼食事の味・色どり・食事の内容・食事の温度・食器、それぞれの項目への回答の総合結果



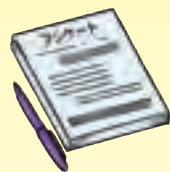
## Q ホームページの内容、情報量、分かりやすさについて



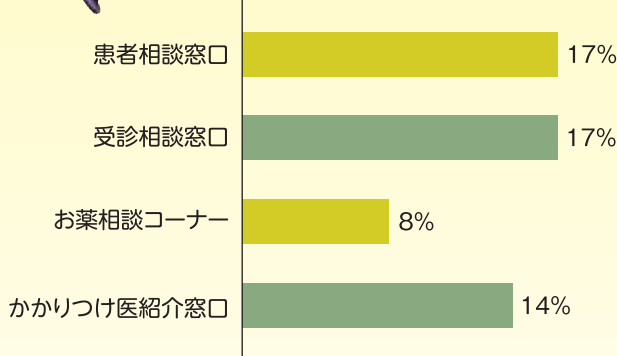
### 患者相談窓口

患者さんまたはご家族からの疾病に関する相談や生活上、入院上の不安など、さまざまなお相談に応じています。医療費、療養生活についての不安、社会福祉制度の利用方法などのご相談をお受けしています。

- 場所／本館2階・8番窓口、医療・福祉相談支援センター
- 相談者／医療ソーシャルワーカー(必要に応じて、関連する各部門職員と連携して対応します)



▼患者相談窓口・受診相談窓口・お薬相談コーナー・かかりつけ医紹介窓口の各窓口について、知っているとお答えした方の割合



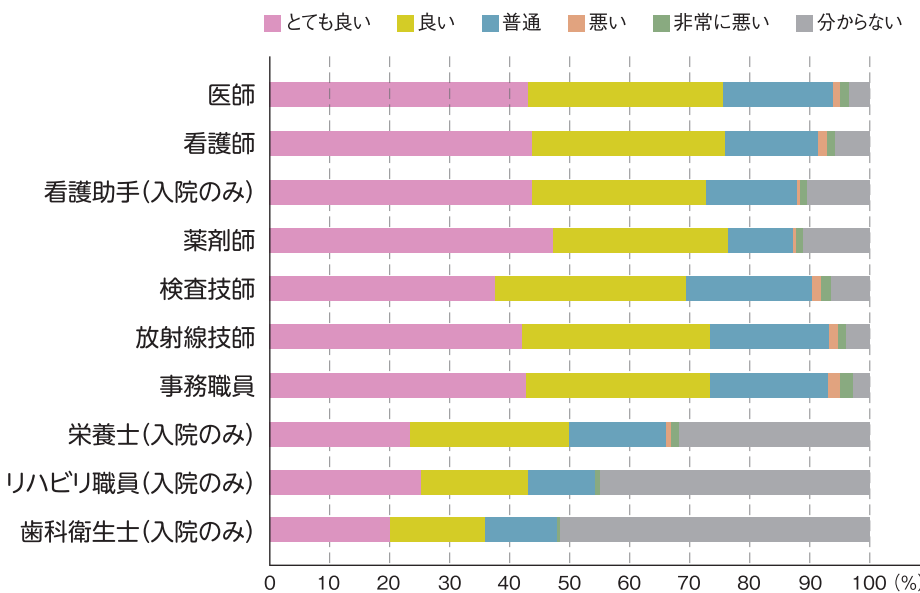
## Q ご存知の相談窓口を選んでください

当院では患者さんからの「ご相談」に対応する窓口を設置しております。今回のアンケートでは、初めて各窓口の認知度を調査しましたので、結果の報告と各窓口をご紹介します。窓口を活用して、不安や心配ごとについてご相談ください。

### 皆さまからのご意見①

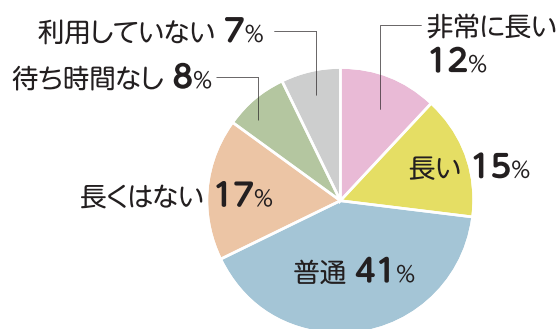
- ・ 病気に対しての不安などを相談すべきところが分からない。
- ・ 医療費が高額になった場合、どうすれば良いのか分からない。
- ・ どの相談窓口へ行ったらいいのですか？

### Q 職員の対応はいかがでしたか？

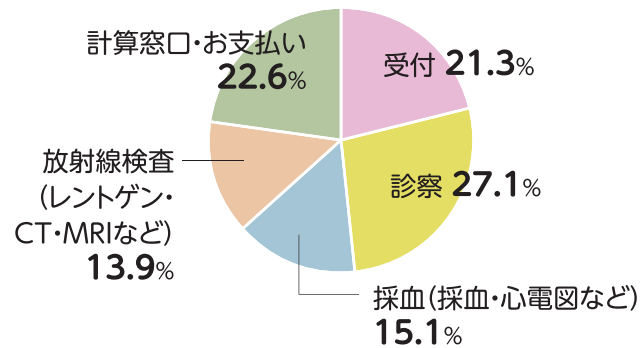


### Q 待ち時間について

▼受付、診察、採血、放射線検査、計算窓口・お支払、それぞれの項目への回答の総合結果



### Q どこで待ち時間を長く感じましたか？



#### 皆さまからのご意見③



昨年より、入院中に必要なアメニティセットをレンタルできるサービスを導入しています。寝巻、タオル類、日用品などを一日単位で日額450円(税込)でご利用いただけます。詳細は2階「入院前サポートセンター」に掲示しているポスターをご覧ください。だき、ぜひご利用ください。

**入院**  
・入院時にアメニティセットが利用できるようになって、とても便利で助かっています。

#### 皆さまからのご意見④

入院生活中のさまざまな場面でのマナーに関するご意見を頂戴しました。特に携帯電話の使用に関しては、他の患者さんの入院生活に影響することもありますので、院内で指定されている場所以外での通話はご遠慮ください。院内での携帯電話の使用については、現在一定のルールを設けて使用制限を緩和していませんが、大部屋の病室での通話は禁止しています。携帯電話の使用可否についてはエリアごとに表示をしております。また、院内掲示のポスターでは、使用可能エリアの一覧を載せていますので、ご確認ください。  
さまざまな病状の患者さんが入院生活を送られています。皆さまが快適に過ごせるよう、携帯電話の利用に限らず、院内のルール遵守にご協力をお願いします。

**入院**  
・大部屋なのに、携帯電話で通話している方がいらっしゃるくらい寝にくかった。  
・大部屋で、携帯電話で大声で話したり、マナーモードになっていなかったりする人がいました。

#### 皆さまからのご意見④

外来では診察時や受付時、電話応対時など、入院では診察時や入院生活中において、職員の患者さんに対する対応について、さまざまなご意見を頂戴しました。  
職員の態度、ならびに言葉遣いなどにより不愉快なお気持ちにさせてしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。  
当院は患者さんの心情に寄り添い、答えることを目的に、接遇に関する研修会を開くなど、患者サービスの向上に向けて取り組んでおりますが、まだまだ未熟であることを痛感しております。  
今回いただいたご意見を踏まえ、さらにより良いサービスを提供できるよう励んでまいります。今後とも患者さんと良好な信頼関係を築けるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

**外来 入院**  
・職員の対応が悪かった。  
・もつと教育してほしい。  
・職員の言葉遣いや話し方で、不快な気持ちになってしまいました。

#### お薬相談コーナー

現在、お薬に関するさまざまな情報が氾濫しています。その中で、本当に必要なお薬の情報とは何かを患者さんと一緒に考え、お薬を通して患者さんのお役に立ちたいとの目的で設置している窓口です。

- 利用可能日時／月・金・午前9時30分～午後3時
- 場所／本館2階・薬剤部薬物療法支援課(お薬相談コーナーへお申し出ください)
- 対象者／当院受診の有無に関わらず、相談可能
- 相談者／薬剤師

#### かかりつけ医紹介窓口

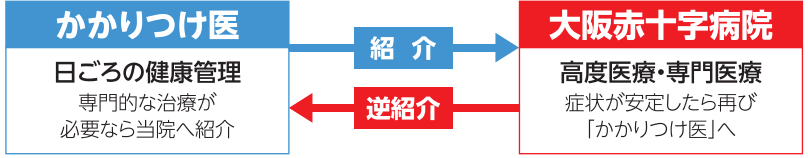
- 患者さんのご希望に添った「かかりつけ医」(※この情報(場所・診療時間・診療科など)を「紹介する窓口」です。)
- ※身近な地域の中で、患者さんの日常的な診察(風邪などの初期治療、慢性疾患の対応等)や健康管理を行う「診療所・クリニックのお医者さん」のことです。
- 利用可能日時／月・金・午前8時30分～午後5時
- 場所／本館2階・総合受付内

#### お褒めの言葉をいただきました

- 医師や看護師は、患者の不安を取り除いてくれる。優しい言葉とやさしさがあり、安心して治療を受けることができます。
- いつもありがとうございます。「きめの細かいサービス」に感謝し、大変喜んでます。
- 明るく気持ちの良い病院です。医師、看護師の方も信頼できます。
- やさしく接してくださる皆さまに感謝しています。
- とても満足し、来院が楽しみです。ありがとうございます。
- 電子カルテ化により以前のカルテや資料が素早く利用されているのに感心しました。今後も現状から改善する点を皆さんで考え、取り組まれることを期待しています。
- 診療では大変お世話になりました。先生、皆さんには「所懸命にしてください」に感謝しています。
- 医師、看護師の対応に非常に感謝している。職員の皆さんの対応は大変親切で、快適な入院生活を過ごしています。
- 病院の各スタッフの皆さんの対応にはいつも感心し、感謝の気持ちです。看護師の方は、特に一生懸命に働く姿が印象に残ります。今後がんばってまいります。
- 先生がいろいろと考えてくださったり、相談に乗っていただけたりする病院は初めてなので、感動しました。看護師さんいつも丁寧親切にしてください心が救われました。
- スタッフの方が皆さん柔らかな笑顔で接してくださったので、安心して入院できました。ありがとうございます。大きな病院ですが、とても温かみを感じ素敵だと思います。

## 「かかりつけ医」をもちましょう 登録医紹介

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。



### たに内科クリニック

- 院長/谷 和宏
- 診療科/内科・消化器科・アレルギー科
- 住所/東大阪市高井田本通1-5-31
- 電話/06-6618-5050
- 往診/有
- 訪問診療/有
- 休診日/木午前・土午後・日・祝
- 診療時間



外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:00~13:00)	○	○	○	△	○	○	△
午後(17:30~19:30)	○	○	○	○	○	△	△

**特長** 平成18年に開院以来、消化器病疾患(胃カメラ・大腸カメラ・エコー)、高血圧・糖尿病・高脂血症などの生活習慣病、およびアレルギー疾患などを中心に、最新の機器を使いながら、お一人おひとりの健康のパートナーとして健康増進をサポートさせていただいています。

**地域の皆さまへ** いつも安心して受診していただけるように心がけています。特に女性の方でも安心して内視鏡検査を受けていただけますように、上部・下部内視鏡は主に女医が担当しています。スタッフ一同、ご来院をお待ちしています。

### 医療法人隆福会 福川内科クリニック

- 院長/福川 隆 ● 診療科/内科・リハビリテーション科
- 住所/大阪市東区東小橋3-17-7
- 電話/06-6974-2338 ● FAX/06-6981-1053
- 往診/有 ● 訪問診療/有 ● 休診日/木・土午後・祝
- 診療時間

外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:30~12:00)	○	○	○	△	○	○	○
午後(16:00~18:30)	○	○	○	△	○	△	△

※日曜日は第1・3日曜日のみ

**特長** 平成2年、地元の鶴橋駅前にて内科を開業。それまでは旧府立羽曳野病院で気管支喘息を主に診察していました。地元ということで開業後すぐ往診を始め、自宅で人生の最期を迎えたいという患者さんのためにも、在宅医療に力を注いできました。休診日は木曜日ですが、第1、第3日曜日は午前診を続けています。余裕のあるスタッフ体制で患者さんをお待たせしないように努めています。

**地域の皆さまへ** ホームドクターの重要性が言われている昨今、「歳を重ね、病を得ても、入院して病気を治療しながら、自宅で安心して暮らして生きたい。」そんな患者さんの思いを助けていこうと、午前診と午後診の間は往診のため自転車ですべて走っています。小さな診療所ですが、ケアマネージャーやヘルパーさんも常時控えて自宅での充実した生活を支えています。



## Topics Box

トピックス & ニュース

### News 選定療養費に関するお知らせ

平成28年4月から国の制度が変わり、当院においても選定療養費を徴収することが義務化になりました。初診時に紹介状をお持ちでない場合5,400円(税込)を、再診患者さんの中で病状が安定し、「かかりつけ医」への紹介を受けた患者さんが「かかりつけ医」からの紹介状を持たずに再受診された場合は、2,700円(税込)をご負担いただくことがあります。

なお、一部国の定めた対象外の方もいらっしゃいます。ご理解のほど、お願い申し上げます。

#### 初・再診時に選定療養費のお支払いが必要ない場合

- 1) 初診受付時に医療機関からの紹介状をお持ちの場合(整骨院、接骨院、鍼灸院からの紹介状は対象外です)
- 2) 緊急を要すると判断した救急受診の場合
- 3) 公費負担医療の対象者の場合(乳幼児・ひとり親家庭医療は対象外です)
- 4) 当院で他の診療科を継続受診中の場合
- 5) 医科と歯科の間で院内紹介で受診した場合
- 6) 特定健診、がん検診等の結果により精密検査の指示があった場合
- 7) 救急医療事業、周産期事業等における休日夜間受診した場合
- 8) 労働災害、公務災害、交通事故、自費診療の場合
- 9) 外来受診後そのまま入院となった場合
- 10) 治験協力者である場合
- 11) 災害により被害を受けた方が受診する場合
- 12) 保険医療機関が当該保険医療機関を直接受診する必要性を特に認めた場合

### 人事異動情報 (平成28年1月1日~4月1日)

**採用** (2月1日付) ●皮膚科/専攻医・栗石 就斗 (4月1日付) ●第三消化器外科/部長・森 章 ●第一放射線診断科/部長・滋野 長平 ●心臓血管外科/副部長・松尾 武彦 ●リウマチ・膠原病内科/専攻医・尾崎 香子 ●腎臓内科/医師・西岡 敬祐 ●血液内科/専攻医・日向 瑞貴 ●糖尿病・内分泌内科/医師・森 栄作、専攻医・藤田 晴香 ●消化器内科/医師・吉田 裕幸 ●循環器内科/医師・小林 洋平、専攻医・梶谷 憲司、田村 章憲 ●外科/医師・東尾 篤史、専攻医・白木 映理子 ●眼科/専攻医・久次米 佑樹 ●泌尿器科/医師・中村 健治 ●耳鼻咽喉科/専攻医・中尾 信裕 ●小児科/専攻医・寺面 浩武 ●呼吸器内科/専攻医・山谷 昂史 ●精神神経科/医師・船山 由樹、専攻医・城内 調和 ●歯科口腔外科/嘱託医師・井奥 雄介 ●放射線診断科/医師・大西 満理、大野 豪 ●放射線治療科/医師・小川 彩加 ●救急科/専攻医・荒 隆紀 ●病理診断科/嘱託医師・鷹巣 晃昌 ●臨床研修医/赤嶺 綿子、池上 華菜子、河合 悠里子、竹村 弘司、辻本 吉孝、天満 祐貴、土井 響、藤本 健尊、政木 ジェニファー・明子、松梨 敦史、森本 佳奈、吉原 理紗、領木 勇人

**退職** (1月31日付) ●皮膚科/専攻医・入江 浩之 (3月31日付) 副院長・藤堂 義郎 ●リハビリテーション科/部長・好井 覚、副部長・大浦 好一郎 ●心臓血管外科/副部長・金光 ひでお ●血液内科/医師・三谷 早智子、専攻医・高橋 慧、西 克幸 ●糖尿病・内分泌内科/医師・村上 隆亮、非常勤嘱託医師・綾野 志保 ●消化器内科/医師・佐田 遼太、丸井 彩子 ●循環器内科/医師・福地 浩平(常勤→非常勤) ●不整脈内科/非常勤嘱託医師・小正 晃裕 ●外科/医師・堀池 正樹、奥村 慎太郎、常勤嘱託医師・藤井 雄介、非常勤嘱託医師・多久和 晴子 ●眼科/専攻医・川島 祐、山田 章悟 ●産婦人科/非常勤嘱託医師・長野 英香、専攻医・池田 亜貴子 ●泌尿器科/医師・河野 仁 ●小児科/専攻医・高野 良彦 ●呼吸器内科/医師・有安 亮、専攻医・船造 智子、池上 直弥 ●精神神経科/専攻医・本 将昂、亀井 士郎、三嶋 亮 ●整形外科/医師・白 晨 ●放射線診断科/医師・西尾 直子、非常勤嘱託医師・岡田 務 ●放射線治療科/医師・小野 幸果 ●麻酔科/非常勤嘱託医師・辰巳 健一郎、董 理 ●救急科/非常勤嘱託医師・吉田 真教 ●病理診断科/非常勤嘱託医師・羽賀 博典、桜井 孝規、南口 早智子、吉澤 明彦、片岡 竜貴、渋谷 信介、武内 英二、松城 尚憲 ●臨床研修医/林 哲哉、大平 純一郎、稲垣 健太、瀧田 舞、澤田 賢治

**転任** (4月1日付) ●放射線診断科/副部長・梅岡成章→日本赤十字社和歌山医療センター ●救急科/医師・鉢嶺将明→名古屋第二赤十字病院

### 病院のご案内

- 受付時間(月~金) (診療開始は午前8:45からです)  
初診/月曜日~金曜日 8:30~11:30 再診/月曜日~金曜日 8:00~11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日~1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください)  
平日/14:00~19:00 休診日/10:00~12:00、14:00~19:00  
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00~19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は敷地内全面禁煙です  
当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いします。

## 大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成28年4月発行

■ お問い合わせ  
TEL:06-6774-5111 (代表)  
大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>  
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

